

4. パーンチャカイ (Pahn Takai) の滝と洞窟

U(ウー)自治区にあり車で25～30分南下すると右手に標識が見えます。そこを右折して舗装道路が終わる所近くまで運転します。案内人をつける必要があります。

パーンチャカイとは「岩の下」との意味だそうです。

歩き始めると林越しに滝の落下が見え出します。絶景です。斜面を進みます。斜面の上部に大きな洞窟が現れます。コウモリの住み穴と言われています。案内人が滝の落下地点に向かう岩場(祭壇)の上に新しい木の葉を供えます。精霊に幸運を祈願する意味が込められています。

道中はバランスを崩さぬ様注意して下さい。

次々に目に入る変化ある景色に「映画の景色」に出会ったと表現した青年もいました。



滑り落ちそうな錯覚に囚われますので慎重に前進する事が肝要です。
上の写真の左に洞窟が見えます。



せり出した岩から落下する滝です。落下する滝の黒点は岩ツバメです。
急斜面を汗をかきながら下りましたが、十分に報われる景色です。
時間に追われた訪問者には中々案内する機会がありません。
下は涼しいです。一度は訪問を奨めたい場所です。
精霊達の息吹を感じるかもしれませんよ。

5. ポーンパイプ・ペトログリフ (Pohnpaip Petroglyphs)



ポーンパイプとは「岩の上」、ペトログリフとは「岩石彫刻」の意味です。



Madolenihmw (マタラニューム) 自治区のサパアラップ (Sapwalap) 村の丘に巨大な岩石があり、その表面に太陽や月、刀や足跡が掘られてるのを見る事が出来ます。キチ自治区にある双子滝を作った兄弟がキチ自治区から盗んだベッドのシーツをラパンゴ (幽霊) が石に変えたとの伝説があります。その後ポンペイ島に移住して来た人達が石に彫り物をする様になったとも伝えられています。岩石の丘の手前に興味深い形の巨岩があります。コロニアから車で60~70分南下すると丘入口に到着します。現在、標識は見当たりませんので前もって調査し案内人(説明人)を付けるがベターです。



岩石の丘の上から山々が見え、山に向かって叫びたくもなります。岩石に多くの彫り物がしてあります。しかし、ご丁寧に全ての彫り物を白ペンキでなぞってあるため若干シラケます。多分丘の入口付近の巨大な岩石(この岩にも彫り物があります)について最近になって書かれたと思われる多くの落書きを見たからかも知れません。文化遺産です。

6. パーンシレイの滝 (Pahnsile Waterfall)



Madolenihmw (マタラニューム) 自治区内にあり、コロニアから車で65～75分位南下すると右側に標識があります。そこを右折し工事中の道路の突き当たりまで車を進め、日本統治時代には大いに開発、利用された大農園用の水路(石の道が続いてます)に添って25～30分歩くと滝に出ます。案内人は必ずつけて下さい。道中にあった、かつての大農園も今は森林に覆われています。種々の植物を観察するには絶好のコースと思われます。森林浴と洒落込むのもグッドアイデアと思います。滝壺では水浴も楽しめます。小魚や川エビも豊富に見られます。足元に注意するのは何処でも同じです。ここはさして難しいコースではありません。楽しみながら滝に到着して下さい。

7. ケプロイの滝 (Kepirohi waterfall)



ナンマドール遺跡と共に遠来の客を案内する絶好のポイントです。
水は冷たく快適で水浴も出来ます。
ドーナツやパン屑を投げると魚が群がり寄って来ます。
時々大ウナギも挨拶に参上します。
暫し冷たい水に足を浸すもよし、滝壺の生き物を観察するもよし、躊躇わずに水に浸かるもよし、それぞれに楽しんで下さい。
但し、大雨の後は落水量も多く激しく壮観ですが滝壺間近には接近出来ません。



Madolenihmw (マタラニューム) 自治区にあり、コロニアから30 km (車で1時間半以内) で到着します。入口 (標識) から徒歩で10~15分。滝は滑りやすいの登るのは止めたが良く、道中の石や岩は滑りやすいので川を渡る際は足場を充分に確認して下さい。

8. チャカイウー山 (Mt.Takaiuh)



コロニアより南下しケプロイが近付く頃から海岸寄りに見える山です。興味深い眺めの山です。山の位置と道路の曲がり具合の関係ではほんの少し走っただけで遠近が変わる山で特に帰路の場合、目の前に見えたと思うと次に視界に入る時はかなりの遠くに見えます。

9. PATS(Ponape Agriculture and Trade School)



1965年に設立された職業訓練校で農業、工芸、機械修理、その他の指導を行っています。生徒はミクロの各州や近隣の国からも来ており全生徒は寮生活を行っております。今までに多くの人材を育成しております。ナンマドールに陸路で行く際はPATSを通過して進みます。理想的な環境に学校はあると思います。

10. トロプウロプル (Dolepwurpwur) 砲台跡



陸路でナンマドールへ向かう際、料金徴収所の手前に砲台への入口道があります。以前は標識がありましたが最近は見えなくなりました。標識があった時も入口道はウツカリ見落としがちでしたので訪問を計画されるなら前もって案内人に通知されるがベターです。小高い丘、海が見える丘に四門の砲が海を睨んで残っております。砲台は草で半ば覆われており砲身は錆付いております。

回りの景色にそぐわない砲台ですが、当時は戦略的に重要なポイントだったと思われます。年配の方か私の息子しか案内した事はありません。先の大戦の善悪を論ずる気は毛頭ありません。歴史として認識して欲しいと考えてます。

1 1. ナンマドール (Nan Madol) 遺跡



(祈りと審判の場)

のページで紹介する『ナン・トールス』です。

文字が無かったためか歴史は全て語り継がれの伝承であり、西暦500～1300年間に出来あがったと伝えられているとの事です。突如滅びたのですが、滅びは16世紀頃と推定されるのみで確証はないとの事です。それだけに多くの伝説と謎が残されているのだと思います。

多くの謎と伝説に包まれたナンマドール遺跡です。

陸路(車で1時間30分前後)の場合は干潮時、海路(船外機付きボートで1時間少々)を選択する場合は満潮時を狙ってコロニアを発します。

日本からも度々報道陣がやって来てTVで放映しております。

『太平洋のベニス』と呼称されております。一見ただけでは分かりませんが90以上の人工の島で形成されてるそうです。

遠来の客を案内出来るのは多くの島の中で代々の王の墓、祈りや審判の場があり高さ8メートルの外壁に囲まれた最も象徴的な島でこ



匹敵する理に適った構築法と言われている



建材は全て玄武岩であり現代の建築学にも



す。
二人の兄弟が魔法でソケース（Sokehs）とコスラエ（Kosrae）から柱状の玄武岩を運びナンマドールを創ったとの言い伝えが残っております。

ここに来る度に、如何にしてこの多量の岩を運んだかを考えてしまいます。伝説では魔法と簡単に片付けていますが、その魔法とは現代にも匹敵する力学的機能を込めた機器の存在があったのではと考える事もあります。

1986年に『世界の七不思議』に、また米国内の歴史的遺跡に指定されたそうです。



『ナントーワス』島入口付近の儀式用の石

ないのには驚きます。

多くの伝説が地元の方達の足を遠のかせているのも一因と思います。

訪問される方に一つ忠告を致します。『ナンマドールの領域内では如何なる物、例えば貝殻、岩石の破片、果物等を記念に持ち返らないで下さい。持ち返ればこの精霊の崇りにあいます。』気付かずに持ち返ったばかりに怪我をしたり、帰りの車がパンクしたり、動かなくなったり、その日の食事で中毒を起こした等の話しが結構ありますよ。

笑えば笑え、されど科学的に反論するなかれ、これがナンマドールなのです。



ナンマドールを訪問されれば一目瞭然ですが遺跡は保存が行き届かない状況と思われます。ポンペイの方達の中で、ここを訪れた方が少